

(試験研究課題年次別解説集様式2号：継続課題用)

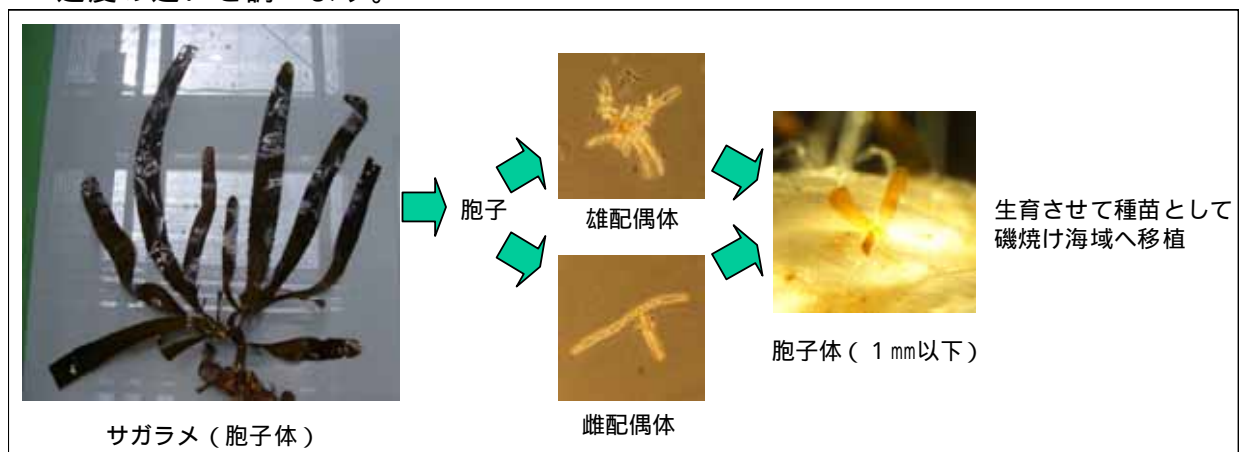
サガラメ・カジメ種苗培養研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成16～20年度)

担当：利用普及部深層水研究室

【研究の背景とねらい】

- ・ サガラメ・カジメで構成される藻場・海中林は、海藻自体が漁獲の対象になるだけでなく、魚類や甲殻類などの産卵場や保育場、アワビやサザエなどの餌になるなど、沿岸域で重要な役割を担っています。
- ・ 現在、本県沿岸ではこれらの藻場・海中林がなくなってしまう「磯焼け」が発生しています。
- ・ 本研究では、磯焼けから藻場・海中林を回復するために、効率良く、安定的にサガラメ、カジメの種苗を供給する技術を開発することを目的としています。
- ・ 種苗となる孢子体を作成するため、光の強さや水温、海水中の栄養塩量による生長速度の違いを調べます。



【これまでに得られた成果】

- ・ サガラメおよびカジメ孢子体及び配偶体はともに深層水中で、表層水よりも生長が早くなりました。また、深層水中で生育させるための光・水温条件を明らかにしました。(平成16～17年度)
- ・ 深層水を使い、サガラメ・カジメ種苗を試験的に生産しました。(平成16～19年度)
- ・ 孢子を採取する際に必要な母藻の成熟条件を明らかにしました。(平成18年度)
- ・ 榛南海域で試験的にサガラメ海面養殖を行いました。(平成18～19年度)

【期待される成果】

- ・ 種苗生産方法が確立されることにより、磯焼け海域への“苗”の安定した供給が可能となります。現時点では試験的な試みの段階ですが、多量の“苗”を生産できれば、山に植林するように海中に移植することが可能となります。
- ・ サガラメは食用としての需要も多いため、安定した種苗生産が可能になれば、サガラメ養殖を行うことも可能となります。

【今後の計画】

- ・ 種苗培養技術を開発し、種苗の安定供給を可能にします。(平成19～20年度)

(作成 平成20年4月)